

令和3年度
「訪問看護師・病院看護師
人材交流在宅看護教育プログラム」
募集要項

—奈良県立医科大学履修証明制度—
3ヶ月コース9月開講

出願書類提出期間	令和3年7月9日(金)~7月30日(金)
----------	----------------------

奈良県立医科大学

目次

令和3年度 訪問看護師・病院看護師人材交流在宅看護教育プログラム

I. はじめに	1
II. 目的	2
III. 目標	2
IV. コースの概要	
1. 訪問看護コース	3
2. 在宅療養移行支援コーディネーターコース	3
V. カリキュラム	
1. 訪問看護師コースカリキュラム（プログラム総時間 133 時間 15 分）	4
2. 在宅療養移行支援コーディネーターカリキュラム（プログラム総時間 124 時間）	4
3. カリキュラムの科目内容	5
VI. 募集人員	8
VII. 出願資格	8
VIII. 審査方法	8
IX. 申込み	8
X. 受講料	8
XI. 受講までの流れ	8
XII. 研修スケジュール	
1. 訪問看護コーススケジュール（病院看護師向け）	9
2. 在宅療養移行支援コーディネーターコーススケジュール	10
＜応募書類＞	
在宅看護教育における履修証明プログラム願書	12
受講理由書	13
希望調書	14
推薦書	15

令和3年度 訪問看護師・病院看護師人材交流在宅看護教育プログラム

I. はじめに

人がつながること・つながるための準備体制を整える意義

地域包括ケアシステムの構築を目指すためには、教育は重要です。本来、人は人のつながりの中で成長していく存在と考えます。人がつながっていくためには、顔の見える関係づくり、人との交流の中で、「怒のこころ（思いやる心）」は育まれて、二倍三倍の力となり、一人では限界のあることも創り上げていくことができます。

今回、病院看護師、訪問看護師に対しての教育プログラムを考案しました。看護学生を指導する看護師の現任教育も併せて行うことが、在宅看護特別教育プログラムが継続する秘訣であると考えました。学生指導の中で共に学ぶ姿勢も大切ですが、指導者もまた学習者である意識のもと、自己研鑽できる環境づくりが、「共に学ぶ」姿勢を養う重要なカギであり、本当の意味での「共に学ぶ」姿勢を養うことねらいとしました。

学生教育から現任教育への継続教育と指導者側の看護師の教育の両側面からのアプローチプログラムによって、長期的に人材育成を図ることになると考えています。今回のプログラムは、在宅看護特別教育プログラムの指導者を含めて、実習指導経験のある看護師を対象として、地域包括ケアシステム構築（Aging in place）の在り方まで学習していきます。

プログラムの特徴

この在宅看護教育プログラムは、病院看護師と訪問看護師間の人材交流を活用して、①互いの看護の現状を理解し、療養者とご家族が安心してシームレスに療養移行できるように支援するきっかけとする、②看護に対するモチベーションの維持・向上を図る、③病院および在宅看護間の看看連携の強化を図る契機となる、④同時期に互いの場での研修が行われる仕組み、⑤病院看護師は訪問看護を経験、⑥訪問看護師は現在の病院の先端医療と入退院支援や緩和ケア、外来等、日々のケアに活かせるような場を経験、⑦コース修了時に修了証または履修証明書を取得できる点です。在宅看護の場は、訪問看護だけではなく、病院から在宅あるいは介護施設等、自宅に代わる住まいでの療養生活を含めて広義の意味で捉えています。

奈良県の人々が一つになって和の精神で紡ぎ続けることで、自助・互助力を最大限に発揮して最終的にゆるぎない地域包括ケアシステムにつながると考えてこのプログラムを作成しました。

奈良県立医科大学医学部看護学科
在宅看護学 教授 小竹久実子

Ⅱ. 目的

本コースは、在宅看護のリーダーを育成する臨地実習指導者および主任クラス、或いは同等以上とみなされる病院看護師および訪問看護師を対象とした人材交流を活用した教育プログラムです。

目的は、病院および在宅における訪問看護の実際を経験し、互いの看護の場の現状の理解を深め、顔の見える関係をつくり、最終的に地域包括ケアシステムの構築を担う人材の育成をめざしています。

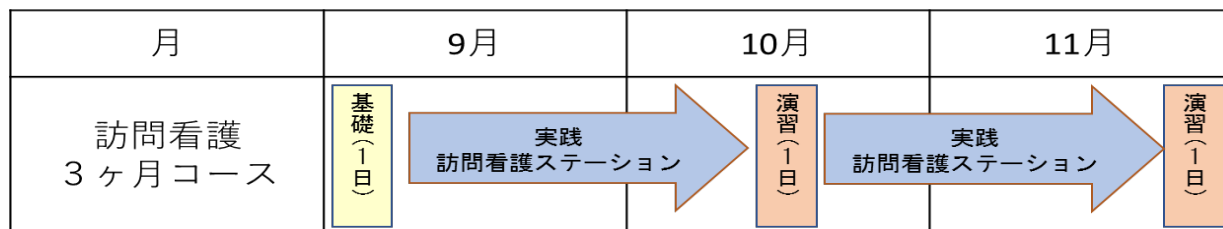
Ⅲ. 目標

1. 在宅看護力を高めることができる
2. 奈良県の在宅看護を牽引する力を養う
(地域包括ケアの円滑な運営を図り、療養者や家族が安心して暮らせるようになるために、黒子役となって支援できる資質を養うことができる)
3. 看護職者として療養者・家族・協働する専門職者に対し、倫理的配慮と忠恕力（思いやる心）をもって援助的関係を構築することができる
4. 多様な文化、生活、価値観、ライフヒストリーからニーズを理解し、療養者とその家族の生活の質が維持・向上するための看護実践能力を高めることができる
5. 相談、調整、連携力を高めることができる
6. 他職種の専門性を理解し、連携に関するマネジメントができる
7. 地域包括ケアシステムにおけるそれぞれの役割を理解し、看護職者としての役割を果たし、地域包括ケア体制を整えることができる
8. 療養者の住む地域の社会資源について把握し、在宅療養生活を安心して送れるよう看護援助できる
9. 看護の本質（人と人として向き合う姿勢、Being with the person;寄り添う）を改めて再考できる
10. 自己理解・他者理解を深めることができる
11. 自己の課題を明確化することができる
12. 自己教育力を養うことができる
13. 在宅看護のおもしろさ（Interest）を追究できる
14. 論理的思考力、説明力を養うことができる

IV. コースの概要

1. 訪問看護コース(3ヶ月)

- (1) 受講対象者：病院看護師
- (2) 受講可能条件：看護部長が推薦する者、実習指導者経験以上
- (3) コース内容：訪問看護ステーションでの実践(小児から高齢者、難病者、ターミナルケア、他病院との連携等)



2. 在宅療養移行支援コーディネーターコース(3ヶ月)

- (1) 受講対象者：病院看護師、訪問看護師
- (2) 受講可能条件：看護部長・管理者が推薦する者、実習指導者経験以上
- (3) コース内容：
 - ・地域連携室、入退院支援センター。緩和ケアなどの外来、他病院との連携等での看護実践
 - ・多重課題のある在宅療養移行支援
 - ・高度医療技術の習得(最新の医療機器の学習)



■ 取得できる修了証もしくは履修証明書

※ コースごとに定める修了要件を充たした場合は、以下の証書が付与される。

訪問看護コース ⇒ 【訪問看護師証明証 (奈良医大認定)】【履修証明書】

在宅療養移行支援コーディネーターコース

⇒ 【在宅療養移行支援コーディネーター証明証 (奈良医大認定)】【履修証明書】

V. カリキュラム

1. 訪問看護コースカリキュラム（プログラム総時間 133 時間 15 分）

年次	科目	時間数
後期	基礎編 「ポートフォリオ作成、課題レポート、 プレゼンテーション」	1 回 7 時間 45 分
後期	演習編 「事例検討会」	2 回 15 時間 30 分
後期	実践編 訪問看護ステーション実習	2-3 事例×1H×55 日 110 時間

*学修時間の考え方

- ・プログラムは原則すべて学修することが求められるが、演習については3分の2以上、実習については5分の4以上の参加を下回る場合、履修証明証の取得ができない

2. 在宅療養移行支援コーディネーターカリキュラム（プログラム総時間 124 時間）

年次	科目	時間数
後期	基礎編 「ポートフォリオ作成、課題レポート、 プレゼンテーション」	1 回 7 時間 45 分
後期	演習編 「事例検討会」	2 回 15 時間 30 分
後期	実践編 病院実習	1 日/ 15 日 100 時間 45 分

*学修時間の考え方

- ・プログラムは原則すべて学修することが求められるが、演習については3分の2以上、実習については5分の4以上の参加を下回る場合、履修証明証の取得ができない

時間割（基礎編・演習編）

8:30-10:00

10:10-11:40

12:40-14:10

14:20-15:50

16:00-17:15

実践編時間割 8:30～17:30（施設の時間による）

3. カリキュラムの科目内容

後期	【基礎編】 訪問看護コース/在宅療養移行支 援コーディネーターコース	7時間45分	宇都宮宏子 小竹久実子 栗田麻美
----	--	--------	------------------------

1) 到達目標 *事前課題

- (1) 奈良県の地域の特徴を捉え、介護保険・医療保険・福祉制度についての知識を深め、現状と課題を理解する*
- (2) ケアマネジメント（看護倫理含む）*および多職種連携の現状と課題を理解する
- (3) 地域包括ケアシステムの現状をふまえ、奈良県内におけるシステム構築について、マクロな視点（総合的かつ広い視野）から方策を検討し、今後の自身の看護実践や役割について考察できる。
- (4) 実際の事例から看護の対象を捉える（病態生理、1日の生活、ライフヒストリー、療養生活を支える人々、社会資源等を統合してアセスメントする）*
- (5) 実際の事例から外来・訪問看護・入退院支援における支援の在り方を検討する
- (6) グループディスカッションを通して、互いの場の違いや共通性を共有しながら、シームレスなケアの策を検討し、相談、調整、連携力を高めることができる

2) 授業計画：8:30-17:15（8時間） 担当教員：宇都宮、小竹、栗田

日程	時間	演習内容	主担当
9/1	8:30	オリエンテーション（3ヶ月の学修、ポートフォリオ）	小竹、栗田
(水) 開講式	9:00- 10:30	1. 地域包括ケアを推進するマネジメント・看看連携体制の構築 ・4つの場面（退院支援・日常の療養支援・急変時の対応 ・看取り） ・人生最終段階の医療・ケアのあり方 （ガイドライン改定をふまえて） 2. 在宅療養移行支援の実践に向けてリーダーが果たす役割 ・退院支援・退院調整（3段階プロセス）・外来支援 ・組織を超えた看看連携・多職種連携	宇都宮
	10:40- 14:30	(3) 入退院支援・訪問看護・外来看護における支援の在り方の 検討（個人ワーク） 昼休憩（12:10-13:10）	宇都宮 小竹、栗田
	14:40- 16:10	(4) 個人ワークの発表会 （30分/人:発表15分,検討15分）	宇都宮 栗田、小竹
	16:20- 17:15	(5) 実践編の学習課題の明確化と実習計画立案、 ポートフォリオ、本日の受講アンケート記入	宇都宮 栗田、小竹

3) 基礎編学習の進めかた

- (1) 学習課題の明確化と到達目標に対する学習方法を決定し、実施計画を立案実施する
- (2) 学習内容を発表し、意見交換を行う
- (3) 到達目標に対する評価を行い、今後の課題を明確にする

4) 基礎編教員

宇都宮宏子先生（在宅ケア移行支援研究所）、奈良県立医科大学在宅看護学教員

後期	【演習編】 訪問看護コース/在宅療養移行支援 コーディネーターコース	15時間 30分	宇都宮宏子 小竹久実子 栗田麻美
----	--	-------------	------------------------

1) 到達目標

- (1) 深く考察したい事例を1事例選択し、事例紹介できるようにまとめ、再アセスメントし、看護のあり方をリフレクションする
- (2) 療養生活を行う療養者・家族の対象理解と看護のニーズについて理解し、希望に沿った看護実践を行うにはどうしたらよいか考察する
- (3) 今後の課題と実現可能性のある計画を立案し、次の実践へむけた準備ができる
- (4) 奈良県内の地域包括ケアシステム体制の構想について検討することができる
- (5) グループディスカッションを通して、互いの場の違いや共通性を共有しながら、シームレスなケアの方策を具体的に検討し、相談、調整、連携力を高めることができる

2) 授業計画：8:30-17:15（8時間） 担当教員：宇都宮、小竹、栗田

日程	時間	演習内容	主担当
10/26 (火)	8:30-10:30	発表のパワーポイントの準備	小竹、栗田
	10:40-12:10	(1)事例・活動発表会 30分/人	宇都宮、小竹、栗田
	13:10-14:30	(2)グループワーク(次の課題の明確化)	宇都宮、小竹、栗田
	14:40-16:10	(3)個人ワーク	宇都宮、小竹、栗田
	16:20-17:15	(4)ポートフォリオ (25分個人ワーク、25分共有) 本日の受講アンケート記入	宇都宮、小竹、栗田
11/25 (木)	8:30-10:30	発表のパワーポイントの準備	小竹、栗田
	10:40-12:10	(1)事例・活動発表会 30分/人	宇都宮、小竹、栗田
	13:10-14:30	(2)グループワーク(次の課題の明確化)	宇都宮、小竹、栗田
	14:40-16:10	(3)個人ワーク	宇都宮、小竹、栗田
	16:20-16:45	ポートフォリオ(半年後の目標立案)	宇都宮、小竹、栗田
	16:45-17:15	修了式/本日の受講アンケート記入	宇都宮、小竹、栗田

3) 演習の進めかた

- (1) 病院看護師・訪問看護師間で、それぞれの事例の対象理解を深められるようにディスカッションする
- (2) パワーポイントにて準備をして、プレゼンテーションを行う
- (3) 到達目標に対する評価を行い、今後の課題を明確にする
- (4) 次の事例へと活かすための方策を明確にする

4) 演習担当教員

宇都宮宏子先生（在宅ケア移行支援研究所）、奈良県立医科大学在宅看護学教員

後期	【実践編】 訪問看護コース/在宅療養移行支援 コーディネーターコース	110 時間 /100 時間 45 分	臨地実習指導者 他
----	--	---------------------------	-----------

1) 到達目標

- (1) 訪問看護の実際を通して、看護の対象を時間軸で捉え、支援のタイミングおよび先を見据えた看護計画を立案して援助し、その援助が生活の視点に基づいたニーズに沿った看護となっていたか考察できる
- (2) 在宅療養移行支援の実際を通して、看護の対象を時間軸で捉え、支援のタイミングおよび先を見据えた看護計画立案のもと援助を行い、その援助が継続看護であったのか考察できる
- (3) 外来における在宅療養支援の実際および療養者と家族のニーズを把握し、看護計画立案のもと先を見据えた支援を行い、連携チーム体制の構築の在り方を考察する

2) 実習場所

療養者入院病棟、入退院支援センター、外来、訪問看護ステーション等

3) 実習の進めかた

- (1) 看護計画を立案して援助するにあたって、対象の過去・現在・未来を人生ストーリーラインで捉え、生活の視点から看護計画を立案し援助する。その援助に対する評価を行い、次の援助に活かす
- (2) 在宅療養移行支援を通して、対象の希望に沿った支援のあり方と倫理的課題について考察し、今後の実践への看護へ反映させる
- (3) 病棟・外来における看護の実際から、連携の在り方と体制づくりについて考察し、療養移行支援計画を立案して援助を行い、その援助がどうであったのか考察する
- (4) 現在の先端医療の現状を把握し、どのように看護に活かすか考察する。
- (5) ケースレポートから、地域包括ケアシステムの構築を検討し、今後の看護実践に活かす方策を考察する
- (6) 到達目標に対する評価を行い、今後の課題を明確にする

4) 実習協力施設

看護協会立櫃原訪問看護ステーション、奈良県立医科大学附属病院

VI. 募集人員

5名程度

VII. 出願資格

志願できるものは、次のいずれかに該当する者

- 1) 所属長（看護管理者）の推薦または、それに相当する方の推薦がある者
- 2) 実習指導者経験を有する者
- 3) 本コースを修了後、奈良県において看護、または、看護教育に従事する意志がある者

VIII. 審査方法

書類選考

IX. 申込み

1) 申込み方法

下記出願書類提出期間に、出願書類を**書留郵便**で出願してください。

※配達指定郵便等で**期間内に大学必着**のこと。（持参不可）

出願書類提出期間	令和3年7月9日(金)～30日(金) (大学必着)
----------	---------------------------

2) 出願書類郵送先

〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840 番地

奈良県立医科大学 教育支援課 在宅看護教育担当

TEL 0744-22-3051 内線2218

3) 出願書類

- (1) 在宅看護教育における履修証明プログラム願書 <様式第2号①>
- (2) 受講理由書 <様式第2号②>
- (3) 希望調書
- (4) 推薦書
- (5) 返信用封筒(切手84円を貼付した定型封筒)

X. 受講料

無料

XI. 受講までの流れ

時 期	内 容
7月9日～7月30日	郵送により申込みを受け付けます。
8月25日までに	受講決定通知が届きます。
9月1日～	プログラム受講開始です。

XII. 研修スケジュール

1. 訪問看護コーススケジュール

令和3年9月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
			開講式 【基礎編】	実践1	実践2	
5	6	7	8	9	10	11
	実践3	実践4	実践5	実践6	実践7	
12	13	14	15	16	17	18
	実践8	実践9	実践10	実践11	実践12	
19	20	21	22	23	24	25
	祝日	実践13	実践14	祝日	実践15	
26	27	28	29	30		
	実践16	実践17	実践18	実践19		

令和3年10月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
					実践20	
3	4	5	6	7	8	9
	実践21	実践22	実践23	実践24	実践25	
10	11	12	13	14	15	16
	実践26	実践27	実践28	実践29	実践30	
17	18	19	20	21	22	23
	実践31	実践32	実践33	実践34	実践35	
24	25	26	27	28	29	30
	実践36	【演習編】	実践37	実践38	実践39	
31						

令和3年11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	実践40	実践41	祝日	実践42	実践43	
7	8	9	10	11	12	13
	実践44	実践45	実践46	実践47	実践48	
14	15	16	17	18	19	20
	実践49	実践50	実践51	実践52	実践53	
21	22	23	24	25	26	27
	実践54	祝日	実践55	【演習編】	通常勤務	
28	29	30				
	通常勤務	通常勤務				

※ 基礎編・演習編の曜日は病院看護師・訪問看護師
合同となります。

※ 実践: 出向先の看護実践 (60日)

<時間割 基礎編・演習編>

8:30-10:00

10:10-11:40

12:40-14:10

14:20-15:50

16:00-17:15

7時間45分×(基礎 1+演習 2)=23時間15分

<実践編>

たとえば訪問時間60分の場合

2-3事例程度×60分/55日

110時間

※合計:133時間15分

2. 在宅療養移行支援コーディネーターコーススケジュール

令和3年9月

日	月	火	水	木	金	土
			1 開講式 【基礎編】	2 実践1	3 通常勤務	4
5	6	7	8	9	10	11
	通常勤務	通常勤務	通常勤務	実践2	通常勤務	
12	13	14	15	16	17	18
	通常勤務	通常勤務	通常勤務	実践3	通常勤務	
19	20 祝日	21	22	23 祝日	24	25
26	27	28	29	30		
	通常勤務	通常勤務	通常勤務	実践4		

令和3年10月

日	月	火	水	木	金	土
					1 通常勤務	2
3	4	5	6	7	8	9
	通常勤務	通常勤務	通常勤務	実践5	通常勤務	
10	11	12	13	14	15	16
	通常勤務	通常勤務	通常勤務	実践6	通常勤務	
17	18	19	20	21	22	23
	通常勤務	通常勤務	通常勤務	実践7	通常勤務	
24	25	26 【演習編】	27	28	29	30
	通常勤務	【演習編】	通常勤務	実践8	通常勤務	
31						

令和3年11月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
	通常勤務	通常勤務	祝日	実践9	通常勤務	
7	8	9	10	11	12	13
	通常勤務	通常勤務	通常勤務	実践10	通常勤務	
14	15	16	17	18	19	20
	通常勤務	通常勤務	通常勤務	実践11	通常勤務	
21	22	23 祝日	24	25	26	27
	実践12	祝日	実践13	【演習編】	通常勤務	
28	29	30				
	通常勤務	通常勤務				

- ※ 基礎編・演習編の曜日は病院看護師・訪問看護師
合同となります。
- ※ 実践: 出向先の看護実践 (13日)

<時間割 基礎編・演習編>

8:30-10:00
10:10-11:40
12:40-14:10
14:20-15:50
16:00-17:15

7時間45分×(基礎 1+演習 2)=23時間15分

<実践編>

1日7時間45分/13日
100時間45分

※合計:124時間

応募書類

申請番号	※
------	---

在宅看護教育における履修証明プログラム願書

プログラム 名称				
フリガナ			男・女	写真貼付 <small>(縦3.0cm×横2.4cm) 無帽上半身 正面向 出願日3ヶ月以内に 撮影したもの</small>
氏名				
生年月日	年	月	日生(満	歳)
現住所	〒 —			
	TEL: — —	E-mail: @		
連絡先 <small>※現住所と違う場 合のみ記入</small>	〒 —			
	TEL: — —	E-mail: @		
	年 月	事 項		
学歴 <small>※高等学校以降 を記入</small>				
職歴				
取得免許等	看護師	年	月	取得・取得見込 免許番号()
	保健師	年	月	取得・取得見込 免許番号()
	助産師	年	月	取得・取得見込 免許番号()
		年	月	取得・取得見込 免許番号()
		年	月	取得・取得見込 免許番号()

記入上の注意 1. ※印欄を除き、黒ボールペンを使用して楷書で丁寧に記入すること。

2. 該当事項は○で囲むこと。

※提出された個人情報本プログラム運営にのみ使用します。

受講理由書

ふりがな		
氏名	氏	名
生年月日	西暦	年 月 日 (歳)

①志願動機、②今までの体験の中で印象に残っている事例紹介、③その事例の看護上の課題（倫理的側面も含む）や困りごと、どう対処すべきだったか記載してください。

<申請番号>

訪問看護師・病院看護師人材交流在宅看護教育プログラムコース

希望調書

<在宅療養移行支援コーディネータコース>

希望病棟	希望期間	学びたいこと
	ヵ月	
	ヵ月	
	ヵ月	

<訪問看護コース>

学びたいこと

<申請番号>

訪問看護師・病院看護師人材交流在宅看護教育プログラムコース

推薦書

所 属	ふりがな	
	氏 名	
年 月 日		
所属長役職名・氏名		印

訪問看護師・病院看護師人材交流在宅看護教育プログラム

発行元 奈良県立医科大学 在宅看護学 小竹久実子

発行日 令和3年7月

住所 奈良県橿原市四条町 840

連絡先 TEL:0744-29-8946 E-mail: kkoake@naramed-u.ac.jp